

重点3 授業改善の推進

◆児童・生徒質問調査の、授業の中での ICT 機器の活用に関する問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	県	全国
(35)	前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使っている。	51.3	61.9		
		43.0	55.1		

全国と比べても、頻繁に活用されていることが分かりますね。



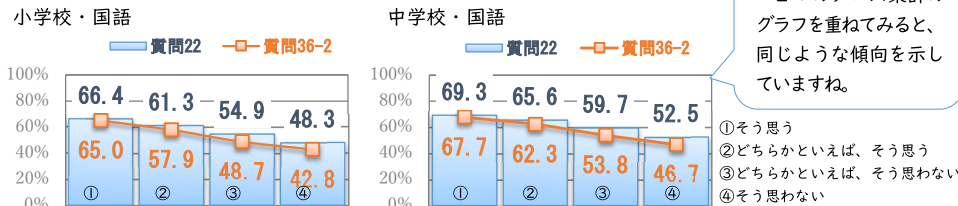
あなたはどのような効果を期待して、授業で ICT 機器を活用していますか。



◆児童・生徒質問調査の、学び方の工夫等に関わる各問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(22)	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	79.4	78.8			
(36-2)	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど) ことができると感じますか。	86.2	92.1			

児童・生徒質問調査(22)及び(36-2)と小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計



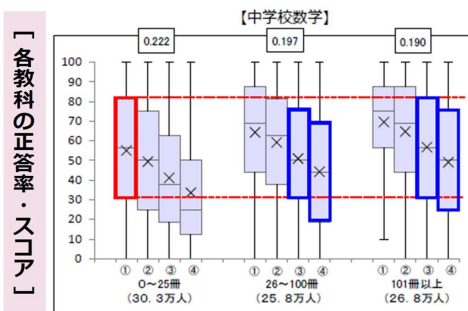
◆児童・生徒が学び方を選択できる状態にあるほど、児童・生徒の国語の平均正答率は高い傾向にあります。

※小・中学校の算数・数学、英語の調査でも同様の傾向が見られました。

◆さらに、家庭の社会的経済的背景(※SES)と ICT 機器の活用の関係に着目すると…

※SES: Socio-Economic Status

[家にある本の冊数] × [ICT 機器を使ってプレゼンテーションを作成することができる] × [教科の正答率・スコア]



SESが低い状況にあっても、ICT 機器を活用する自信がある生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。「SES」×「ICT 機器の活用」×「正答率」で三重クロス集計してみると、左のような箱ひげ図になります。

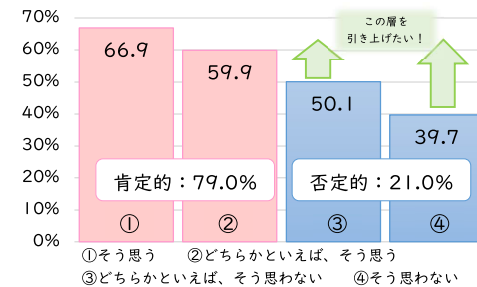
例えば中学校数学では、低SESグループ(本が0~25冊)で ICT 機器の活用の質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ(本が26~100冊)で「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ(本が101冊以上)で「③」「④」と回答した生徒の箱ひげ図の位置(正答率が高い位置)にあります。

◆国から示された上の結果からもわかるように、効果的に ICT 機器を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善をすることは、SESの高低に関わらず、児童・生徒の学力の向上につながります。

◆児童・生徒質問調査の、「主体的な学び」に関わる問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(43)	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	77.0	79.0			

生徒質問調査(43)と中学校数学の平均正答率とのクロス集計



授業の終わりに「今日の学習を振り返りましょう」と言って、時間を確保するようにしていますが、これでよいのでしょうか。



振り返りでは、子どもたちはどんな内容を書いていますか。



「難しかった」や「少し理解できた」など感想のような文章が多いかもしれません。具体的に「どういうところで困ったのか」などがけるとよいのですが…



振り返りの大切な目的は、子ども自身が、自分の学びを見つめなおし、自分にとって最適な学び方に気づいて次の意欲を高めることです。振り返りが形式的なもので終わらず、子どもの学びが深まるような言葉かけも意識できるとよいですね。

ここまでを踏まえ、自分の授業を振り返ってみましょう!

- 子ども自身が学習に必要なタイミングで ICT 機器へアクセスを可能としている。
- それぞれの子どものために学びやすい学習スタイルを選択することができるようにしている。
- 単元等の始まりで、目標の設定や効果的に進める工夫を行っている。
- 日頃の授業などで、子どもたちの「分かった点」や「よく分からなかった点」を把握している。
- 単元等の終わりで、子どもたちの学習状況等を把握し、次の単元等に生かしている。
- 子どもが振り返りなどを行うことによって、自身に合った学び方を見つける機会を設定している。

POINT!!

主体的・対話的で深い学びを実践するために、「子どもたちが自分の学習状況を把握し、学び方を選択できるようにすることや、「先生が子どもたちの学習状況を正しく見取り、実態に応じた授業づくりをする」ことが重要です。

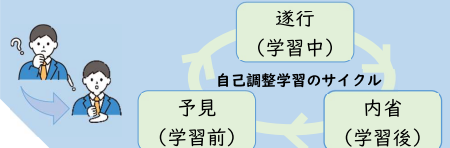
考えてみましょう!!

子どもたちが「分かった点」や「よく分からなかった点」を見直し、次の学習につなげられるように、あなたはどのような工夫をしていますか。



POINT!!

子どもたちが自分で学びを進めていくためには、学びを効果的に進める工夫を計画的に行い、自己の学習状況を把握(メタ認知)しながら学び方を工夫して学習を進め、学習結果の原因・理由や学び方について振り返り、次の学習に進めることが大切です。



子どもたちが振り返りの仕方に慣れるまでは、視点を示すことも有効です。

【振り返りの視点例】

何が分かったのか/どこで考えが変わったのか/どの方法が役に立ったのか/まだ何が分からないのか/次にどう学ぶのか